

2013年3月8日

## 企業会計基準委員会と米国財務会計基準審議会の代表者による定期会合の開催

企業会計基準委員会  
米国財務会計基準審議会

企業会計基準委員会（ASBJ）と米国財務会計基準審議会（FASB）の代表者は、2013年3月4日と5日に、ノーウォーク（米国）で会合を開催いたしました。この会合は、ASBJとFASBが年に2回、定期的に行っているもので、今回で第14回目となりました。

ASBJとFASBは、両者とも、高品質なグローバル会計基準は、世界中の主要資本市場間における財務情報の比較可能性を進展させる上で必要なものであることを強く認識しており、そのような会計基準を発展させる活動の一環として、本定期会合を継続的に実施しています。

本会議において、ASBJとFASBは、お互いの活動の最新状況を確認するとともに、概念フレームワークは高品質なグローバル会計基準の開発のために今後も重要であるとの認識から、その主要論点について議論をいたしました。また、FASBが意見募集をした「開示フレームワーク」について意見交換をいたしました。さらに、FASBと国際会計基準審議会（IASB）が現在審議を行っている以下のプロジェクトの状況について議論いたしました。

- 金融商品：分類及び測定（FASBとIASBがそれぞれ公表した公開草案について等）
- 金融商品：減損（FASBが公表した公開草案とIASBが検討しているモデルについて等）
- リース（2013年第2四半期に公表予定の再公開草案に向けた検討状況等）

ASBJとFASBは、引き続き、直面する課題や今後想定される懸案事項について会合を実施して意見交換していくことといたしました。

西川郁生ASBJ委員長は次のように述べています。

「我々は、様々な最近の論点について、特に将来の会計基準開発の方向性を左右するであろう概念フレームワークについて、建設的な議論ができた。日米両国は世界最大の資本市場のうちの2つを擁しているため、ASBJとFASBがこのような年2回の定期協議を開催するこ

とは、高品質なグローバル会計基準の発展に資するであろう。我々は、引き続きグローバル会計基準の開発に貢献していく所存であり、また、概念フレームワークの改善に対して我々の役割を果たしていこうと考えている。」

レスリー・サイドマンFASB議長は次のように述べています。

「我々は、金融商品やリースなどの様々なトピックについて、ASBJのメンバーと大変建設的な議論ができた。我々はまた、開示フレームワークの開発と、高品質のグローバルな会計基準の基礎となる包括的な概念フレームワークの望ましさについて議論をした。FASBとASBJの双方が、IASBの概念フレームワーク・プロジェクトに積極的に参加することを楽しみにしている。」

なお、次回の会合は2013年下期に東京で開催する予定です。

#### **企業会計基準委員会 (ASBJ) について**

ASBJは、2001年7月に民間部門の機関として設立された。ASBJが開発した会計基準は、金融庁により一般に公正妥当と認められた企業会計の基準として認められることとなる。ASBJは、企業が活動している環境を適切に反映した会計基準及び適用指針を開発している。ASBJは、海外の会計基準設定主体とコミュニケーションを取り、グローバルな会計基準の開発に貢献している。ASBJに関する詳細な情報は、ホームページ <http://www.asb.or.jp/> をご参照いただきたい。

#### **米国財務会計基準審議会 (FASB) について**

FASBは、1973年以来財務会計及び財務報告基準を設定するための民間部門の機関として指定されている。それらの基準は、財務報告書の作成を規定し、証券取引委員会及び米国公認会計士協会により権威のあるものとして正式に認識されている。投資家、債権者、監査人及びその他の人々は、信頼性、透明性、比較可能性のある財務情報を必要とするため、このような基準は、経済の効率的機能にとって不可欠である。FASBに関する詳細な情報は、ホームページ [www.fasb.org](http://www.fasb.org) をご参照いただきたい。